

SDGs未来都市等進捗評価シート

2019年度選定

鳥取県日南町

2022年8月

SDGs未来都市計画名

自治体SDGsモデル事業
又は特に注力する先導的取組

鳥取県日南町 SDGs未来都市計画
第一次産業を元気にする ～SDGsにちなんチャレンジ2030～

-

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

(1) 計画タイトル

鳥取県日南町 SDGs未来都市計画 第一次産業を元気にする ～SDGsにちなんチャレンジ2030～

(2) 2030年のあるべき姿

日南町は「日本の30年先を行く町」としての自覚を持ちつつ、平成27年8月策定の「まち・ひと・しごと創生 日南町人口ビジョン・総合戦略」により、「創造的過疎のまち」を骨格として持続可能なまちづくりへの挑戦を行ってきた。とくに近年では、本町の恵まれた森林資源を余すところなく有効に利用する「カスケード計画」の理念に基づき、既存の森林施策に加わる新たな産業の創出、次世代を担う子ども達への森林（木育）教育、SDGs教育の推進による将来を見据えた林業人材の育成、地元への定着促進を促していくとともに、圏域での経済循環、脱炭素社会の実現など、様々な課題を環境面、経済面、社会面等の側面から総合的に解決していくため、SDGsを中心に据えた「持続可能なまちづくり」を目指している。

(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



(4) 2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況

No	指標名 ※【】内はゴール・ターゲット番号	当初値	2021年（現状値）		2030年（目標値）		達成度（%）
1	木のおもちゃの製造 【ゴール8 ターゲット8.3 8.9】	2019年7月 1 団体	2021年3月 1 団体	2030年3月 3 団体	0%		
2	木のおもちゃの販売 【ゴール8 ターゲット8.3 8.9】	2019年7月 2 品目	2021年3月 4 品目	2030年3月 30 品目	6%		
3	木育を基軸としたワーキングスペース、世代間交流拠点の整備 【ゴール8 ターゲット8.3 8.9】	2019年7月 0 施設	2021年3月 0 施設	2030年3月 1 施設	0%		
4	木材製品を活用した女性による新規産業の創出 【ゴール8 ターゲット8.3 8.9】	2019年7月 0 人	2021年3月 0 人	2030年3月 3 人	0%		
5	林業アカデミーの開校による林業従事者の確保 【ゴール11 ターゲット11.3】	2019年7月 0 人	2021年3月 13 人	2030年3月 100 人	13%		
6	森林教育プログラムの構築 【ゴール13 14 15 ターゲット13.1 14.1 14.2 15.1 15.2】	2019年7月 1 回/年	2021年3月 1 回/年	2030年3月 1 回/年	100%		
7	森林保全強化につなげる企業等との連携（J-クレジット）（単年） 【ゴール13 14 15 ターゲット13.1 14.1 14.2 15.1 15.2】	2019年7月 615 t/年	2021年3月 1,974 t/年	2030年3月 400 t/年	493%		

(5) 「2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

- ①②については、昨年度と変更はないが、2022年4月には新たに女性の木工職人が町外から1名が移住し、今後、木のおもちゃ製造を中心に将来的な起業も含めて町としても支援を行っていく。
- ③については、庁総合文化センター裏のイベント広場に芝生の整備を2023年度に実施予定。2024年度以降、芝生と木育が融合した木工育拠点を整備し、森林、林業、環境といったSDGsの理念を発信する拠点として整備を検討していく。
- ④については、2021年度中に地域おこし起業人材を全国から募集し、結果、2022年4月に町内の木工会社へ1名が就職。2年後の起業を目指すとともに、今後も広く全国から募集を行い、2030年度に向けた目標達成を目指す。
- ⑤については、林業アカデミーへの入学者は毎年10名程度を見込んでおり、2021年度までに13名が新たに就業した。2022年度にはアカデミーに12名が入学し、今後も、卒業生のうち、町内への定住による林業の担い手確保に努め、今後も継続した学生の確保、林業従事者の育成を図ってきたい。
- ⑥については、最低限年1回の森林教育を実施しており、保・小・中すべての年齢層において年1回の森林教育を引き続き実践していく。
- ⑦については、脱炭素社会の高まりからJ-クレジットの販売は増加傾向である。今後も継続した販売により、持続可能な林業の循環が図れるよう努める。

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2019年～2021年

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2019年実績	2020年実績	2021年実績	2021年目標値	達成度(%)
1	しごとをつくり、安心して働けるまちづくり	新規就農者	2018年実績 2名	2019年実績 3名	2020年実績 4名	2021年実績 5名	2021年目標値 10名	37%
2		新規林業従事者	2018年実績 0名	2019年実績 5名	2020年実績 9名	2021年実績 13名	2021年目標値 15名	86%
3	日南町への移住、定住の促進	移住定住者の促進	2018年実績 56名	2019年実績 97名	2020年実績 193名	2021年実績 275名	2021年目標値 600名	40%
4	安心して暮らし続けられる地域づくり	地域間経済循環率の向上	2013年 47.9%	2019年(直近値2015年) 39.5%	2019年(直近値2015年) 39.5%	2019年(直近値2015年) 39.5%	2021年目標値 50%	79%

(2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

日南町がこれまで実施してきた行政施策は、個々の対策としては一定の成果を上げてはいるものの、働き場の確保や高校・大学進学等を機とした町外転出等もあり、大局的には人口の流出が止まらず、「人口減少が地域経済の縮小を呼び、地域経済の縮小が人口減少を加速させる」という負のスパイラルからの脱却には至っていない。こういった課題に対応すべく、日南町においては、SDGsの17のゴールに向けた取り組みを推進していくことはもちろん、17番目の項目である「パートナーシップで目標を達成しよう」に力を入れ、地域の産官学金が連携した形で持続可能な地域づくりを行っている。とくに、地方創生に重要な役割を担っている地域金融機関と密に連携し、地域内、圏域内での脱炭素社会の実現に向けた取り組み、経済循環を促す仕組みや、森林・環境を切り口としたSDGs教育・修学旅行等の受け入れなど、関係人口・交流人口の増といった取り組みを推進している。

(3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

1、2「新規就農者、新規林業従事者の確保」については、既存の農業研修制度のメニューの刷新、また全国初の町立林業アカデミーの開校により、新規就農者が累計で5名の増、新規林業従事者については累計13名の増と、それぞれ人材の確保につながっている。林業人材については概ね目標の8割を超える数値となっているが、農業分野では目標達成に4割に満たず、今後、とりわけ農業分野の受入に一層の力を入れることとしている。

3「町外からの移住者」については、目標値の4割程度であった。コロナ禍もあり移住につながる情報発信等ができなかったことも要因であるが、今後、移住者増を図るため、子育て世代をターゲットとした木育、森林教育を基軸とした施策を推進していくとともに、直接的な人口増減のみならず、関係・交流人口の増加を図る取り組みも推進していく。

4「地域経済循環率」については、数年に一度更新されているが、直近値である2015年度では、2013年度を下回る結果となった。今後、圏域での経済循環を促す取り組みを図るとともに、圏域外からの資金等の流入を図る取り組み等、推進していきたい。

(4) 有識者からの取組に対する評価

- ・実績が着実に積み上がってきており、小規模自治体のモデルになると思われ、今後の更なる発展を期待する。
- ・J-クレジットを販売するための手入れにおいて、林業アカデミーの卒業生などに仕事が生まれる仕組みが構築されており評価できる。大学だけでなく、林業アカデミーなどの現場で経営を学ぶことには大きな意味があると思料する。
- ・移住・定住の人数が多いが、森林教育などの子育てに関する取組による効果であると思料する。